

まえがき

2000年という区切りのよい年に、ウィーンで第13回日本語教育連絡会議を開催することができ大変嬉しく思っています。

もともと東欧で日本語を教えていた日本人教師達が情報交換と研鑽を目的として集まり、第2回目からは東欧に限らず広く参加を求めたという、この会議の起原を考えると、歴史的に東と西との政治、文化の接点であったウィーンがこれまで会場にならなかったのは不思議だといわれてしまうかもしれません。

6年前にスロベニアで開催された第6回会議に初めて参加して以来、毎年開催地として打診を受けながら、常に会場提供の難しさから断らざるを得ず、心苦しい思いをしてきました。しかしながら、1998年夏に日本学研究所がウィーン大学の新キャンパスに移ったことから、ウィーン開催の可能性ができました。1999年秋からは教室内の様々な設備も整い、やっと名乗りをあげることができた次第です。

その日本学研究所も2000年1月より中国学、韓国学と統合され東アジア研究所の一部となりました。第13回日本語教育連絡会議は新しく出発した東アジア研究所での初の国際会議でした。今回は林四郎先生に基調講演のあと、20人の参加者が様々なテーマで発表を行い、活発な質疑応答もあって充実した会議となりました。

事務局としては最低限のことしかできなかったにもかかわらず、会議を無事終えることができたのは、参加者みなさんのご協力があったからこそ感謝しております。また、2日間に渡って会議の舞台裏を支えてくれたマイヤー氏にとくに感謝の意をささげます。

ウィーン大学東アジア研究所日本語学科
マダドナーめぐみ

☆この発表論文集作成に関して、くろしお出版、アルク、凡人社よりご後援をいただきました。